



## 5 副反応について

- ① ワクチン接種によって通常みられる主な副反応については、別紙「HPV ワクチン説明書」をお読みください。
- ② 2種類のワクチンに共通する現象として、まれに以下のような重い副反応があらわれることがあります。
  - ・過敏症反応（アナフィラキシー反応やアナフィラキシー様症状＜呼吸困難、目や唇のまわりの腫れなど＞
  - ・気管支痙攣＜発作的な息切れ＞
  - ・じんましんなど
  - ・ギランバレー症候群（下から上に向かう両足のまひ）
  - ・血小板減少性紫斑病（鼻血、歯ぐきの出血、月経出血の増加など）
  - ・急性散在性脳脊髄炎（まひ、知覚障害運動障害など）このような症状が疑われた場合は、すぐに医師に申し出てください。
- ③ 接種後 1 週間は症状に注意し、強い痛みがある場合や痛みが長く続いている場合など、気になる症状があるときは接種医にご相談ください。

## 6 接種を受けることができない方

- ① 明らかに発熱している方（通常は 37.5℃を超える場合）
- ② 重い急性疾患にかかっている方
- ③ このワクチンの成分によって過敏症（通常接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応を含む）をおこしたことがある方
- ④ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいと言われた方

## 7 接種前に医師と相談しなければならない方

- ① 血小板が少ない方や出血しやすい方
- ② 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- ③ 過去に予防接種で接種後 2 日以内に発熱、全身性発しんなどのアレルギーを疑う症状のみられた方
- ④ 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- ⑤ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方もしくは近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ⑥ 妊婦あるいは妊娠している可能性のある方（3 回の接種期間中を含む）
- ⑦ 現在、授乳中の方
- ⑧ 他の HPV ワクチンの接種を受けたことがある方

## 8 ワクチン接種後の注意

- ① 接種後、緊張のため血管迷走神経反射としての失神（いわゆる脳貧血）や、アナフィラキシー様症状があらわれることがあるので、接種後の移動の際は保護者や医療従事者が腕を持つなどして付き添うようにし、すぐに帰宅することは避け、背もたれのある椅子に体重を預けるなどして少なくともその場で 30 分間は座って静かにしていきましょう。
- ② 接種後は、副反応の増加の可能性から、接種部位を軽くおさえる程度にとどめ、強くこすったり揉まないようにしてください。
- ③ 接種後は、接種部位を清潔に保ちましょう。
- ④ 接種後丸 1 日は、過度な運動を控えましょう。
- ⑤ 接種当日の入浴は問題ありません。
- ⑥ 接種後 1 週間は症状に注意し、気になる症状があるときは接種を受けた医師に相談するとともに、大田区保健所地域健康課にも連絡してください。

## 9 他のワクチンとの接種間隔

- ① 先に生ワクチンを接種した場合は 27 日間以上、不活化ワクチンを接種した場合は 6 日間以上の間隔をあける必要があります。
- ② HPV ワクチンは不活化ワクチンです。接種後、他のワクチンを接種する場合には、6 日間以上の間隔をあける必要があります。
- ③ 他のワクチンとの同時接種は医師の判断となります。

## 10 予防接種による健康被害救済について

ワクチン接種により健康被害が発生した場合、厚生労働大臣が予防接種法に基づく定期予防接種によるものと認定したときは、予防接種法に基づく健康被害救済の給付の対象となります。